

一般質問通告表

平成30年第2回始良市議会定例会（7月3日）

氏名	質問事項	質問の要旨	質問の相手
1. 和田 里志	1. 選挙公約と施政方針について	<p>市長は「鹿児島が変わる！始良も変わろう！」を合言葉に、始良市長選2度目の挑戦で初当選し、就任三か月目を迎えた。</p> <p>これからは始良市がどのような将来像を描いていくのかが重要になるとし、公約をもとに4つの新機軸をたて、攻めの施策を展開するとした。</p> <p>それらの実現に向けた取組や具体的施策、改革の考え方について以下を問う。</p> <p>(1) 公立大学法人の短大創設が主軸の教育関連について</p> <p>(2) 市役所改革における、副市長選任と新庁舎建設問題について</p> <p>(3) 官民一体の駅前再開発プロジェクトを設立し、JRの駅を中心に展開する大改革とまちづくりについて</p> <p>(4) 全天候型子ども館の設立で支援する子育てについて</p> <p>(5) 大型グラウンドゴルフ専用グラウンド創設について</p> <p>(6) 選挙公約と第2次始良市総合計画策定との関連について</p>	市長 教育長
2. 湯川 逸郎	1. こども館の設置について	<p>住民が主役の行財政改革を掲げて市長選挙に臨まれたが、その中の一つとして、子育てしやすい環境づくりのために、全天候型子ども館の設立で、加治木かもだ通りを子育て通りとして再生したいとマニフェストに掲げていた。子育て最中の方々はこども館建設の早期実現を望んでおられるが、市長は今後、どのように進めていく考えか。</p>	市長

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
	<p>2. 総合運動公園の多目的広場の活用について</p> <p>3. 道路行政について</p> <p>4. 並木学院高等学校始良学習支援センターについて</p>	<p>現在、始良市総合運動公園において、フットボールセンター建設、子ども広場、多目的広場、駐車場等の整備が行われている。その事業の中で、多くの市民から現在の多目的広場の活用と周囲の環境は今後どのように変わるのか問われている。</p> <p>サッカーだけに限らず様々なスポーツやレクリエーションに活用され、市民のスポーツ振興、余暇の充実、健康増進が図られるとともに、優秀な選手の育成など多目的に役立つ施設との説明を受けた。</p> <p>6月6日の全員協議会の補正予算説明におけるフットボールセンター完成イメージパース図には立木がないが、その内容等について問う。</p> <p>市道や歩道の悪い箇所、側溝ふたについても危険な箇所が非常に多く見られる。市民の安心安全な生活環境を守るうえで、最も身近な生活道路・側溝ふたの整備などについて、市内を調査し、早急に対策を講じるべきと考えるがどうか。</p> <p>並木学院高等学校始良学習支援センター（通信制・単位制課程による高等学校教育）の開所式が3月28日に加音ホールで行われ、加計学園の加計幸太郎理事長の挨拶の中において、「始良市の加治木町にあるシルバー人材センターの2階を始良市からお借り致しました。」と挨拶されたと聞くが、始良市としてどのような契約がなされているのか。</p>	<p>市 長</p> <p>市 長</p> <p>市 長</p>
3. 田口 幸一	1. 総合運動公園陸上競技場の全天候型について	6月6日の全員協議会で始良フットボールセンター完成イメージパース図が示された。それによるとクラブハウス、天	市 長 教育長

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
	<p>2. 庁舎建設について</p> <p>3. 始良市水道における包括的民間委託について</p> <p>4. 公立短期大学の設置について</p>	<p>然芝グラウンドの整備が、平成30年度から平成31年度の施工となっている。</p> <p>平成22年12月議会でも同じ質問をしているが、以下を問う。</p> <p>(1) 8コースと走り幅跳、三段跳、砲丸投げ、円盤投げ、ハンマー投げ、棒高跳の走路をすべて全天候型にすべきと考えるが、その場合、費用はいくらかかるか。また、国・県の補助金、起債はどうか。</p> <p>(2) 競技場の公認申請をどのように考えるか。平成22年と比較して風向、環境は変わっているがどうか。</p> <p>(3) 全てのスポーツは陸上競技に始まると言われるが、市長、教育長はどのように考えるか。</p> <p>市長は全面的に見直すと言っているが、本庁舎、加治木庁舎、蒲生庁舎はどのようになるのか。</p> <p>(1) 職員数は平成30年度が26人、35年度が17人となっているが、職員組合との協議はなされたのか。</p> <p>(1) 学部、学科はどのようになるのか。 (2) 設置する場所は、どこの予定か。</p>	<p>市 長</p> <p>市 長</p> <p>市 長 教育長</p>
4. 本村 良治	1. 学校現場の働き方改革	<p>マスコミ等で学校における超過勤務が話題になってから相当な時間が経過した。今回は別な角度から働き方改革についての見解を問う。</p> <p>(1) 現在、学校では超過勤務解消に向けてどのような取組を行っているか。</p> <p>(2) 労働安全衛生委員会では超過勤務はどこに原因があると分析しているか。具体的に学校現場での協議内容をもとに説明せよ。</p>	教育長

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
	<p>2. 松原なぎさ小学校近くの交差点に信号機設置を</p>	<p>(3) 超過勤務を命じることができるのはどのような場合か。具体事例を挙げて説明せよ。</p> <p>(4) 現在の超過勤務は、法にのっとって命じることができる内容に該当しているか。</p> <p>児童・生徒の通学路の安全確保についてはこれまで指摘してきた。その後、行政の努力により安全性が確保されてきた。</p> <p>松原なぎさ小学校の通学路において交通量が多いにもかかわらず、信号機が設置されていない交差点がある。</p> <p>(1) この交差点への信号機設置の要望は保護者・地域から出されていないか。</p> <p>(2) 学校としてはこれに対してどのように応えているか。</p> <p>(3) この交差点へのスクールガード・リーダーの配置計画と仕事内容について説明を求める。</p> <p>(4) 登下校時に事故等につながるような事例等はなかったか。事例があれば、その時の様子について具体的に説明せよ。</p> <p>(5) 学校では児童生徒の通学路の安全確保・防犯についてどのような取組を行っているか。</p> <p>(6) この交差点に信号機を設置するためにPTA等と連携して行動を起こす考えはないか。</p>	<p>市 長 教育長</p>
<p>5. 堂森 忠夫</p>	<p>1. 市長の公約について</p>	<p>市長は「公立大学法人の短大創設、市役所改革、そして財政をどうやって大きくしていくか。公約実現のため財政、教育、まちづくり、子育て、高齢者施設などをキーワードにプロジェクトチームをつくる。」と南日本新聞で表明されてい</p>	<p>市 長</p>

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
	2. 猿対策について	<p>る。その内容について以下を問う。</p> <p>(1) 訪問看護と介護やリハビリの専門家を養成する短大の創設を強く願うなかで、定員にはこだわらないと述べているが、最低条件の定員募集は図らなければ学校運営は厳しいのではないか、考えを問う。</p> <p>(2) 短大をつくることで、子どもたちが市外に流出するのを防ぎたい、また、隣接市町と協議し連携を進めて一部事務組合で運営する考えを述べられているが、年間運営費の試算をしているのか。また、他市町への負担率をどの程度求める考えなのか。</p> <p>(3) 新規事業担当部署などには、専門的な人材配置（民間人起用）などを図り、市民の夢を叶える行政運営の推進に努める考えはないか。</p> <p>(4) これまでの市政運営は、小委員会や民間事業者へ委託する事業が多かったが、プロジェクトチームの結成によって、どの様に改善されるのか。</p> <p>(1) 鳥獣被害対策のなかで、近年は猿対策強化の声が中山間地区では多い。 猿被害の多い農村地区の声に応えて、猿対策強化のための整備事業を図れないか問う。</p> <p>(2) 中山間地区に出没する猿は、建物周辺の雑木等や民家の屋根を登り伝わっている状態である。猿対策のなかで、建物や自治会周辺の雑木や立木を伐採する指導態勢を事業に取り組めないか問う。</p> <p>(3) 猿対策を放置すると猿が人間社会に寄り添い、観光地まで猿が出没し観光客へ被害を与えるような状況が迫ってくるのではと危惧するが、市内の観</p>	市 長

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
	<p>3. 世代間の交流と育成について</p>	<p>光地で猿被害を未然に防ぐための整備等を考えているのか問う。</p> <p>(4) 猿が集落に出没する理由はいろいろとあるが、全ての生物が自然界のなかで共存共栄できることが理想である。猿被害を無くすために猿社会の住みかとして、豊かな自然食糧のある森林の中で、猿が自由に暮らすことのできる環境整備を、動物愛護団体と連携して取り組めないか問う。</p> <p>(1) 地域やまちづくりを興すなかで、「よそ者・ばか者・若者」の協働によって、大きな力となり地域を興すことができることを体験から学んできた。</p> <p>地域の次代を生きる若者育成には、消防団活動を活性化させ、地域の絆を深める活動推進を事業化し、積極的な世代活動を応援する取組はできないか問う。</p> <p>(2) 今後の特認校区の地域づくりには若者の育成が必要不可欠である。永原小PTAおやじの会や若者たちが消防団員となり、自主的な活動の取組によって、PTAや太鼓踊り吉左右踊りなどに参画し、地域づくりには欠かせない状況である。先月、開催された始良市消防団の操法大会では、小型ポンプ車と自動車ポンプの部で永原分団が優勝したが、市は操法大会の意義・消防団員の育成や活性化等をどのように推進するのか問う。</p> <p>(3) 親・子・孫の世代間交流を活発に実践する場所を提供することが育成に反映すると捉える。高岡公園多目的運動場や加音ホール前運動場、校庭等の施設を、世代間交流広場として利活用推進に活発に取り組めないか問う。</p>	<p>市 長 教育長</p>

氏 名	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手
		<p>(4) 特認校区の次代を担う若者育成分野では、多児童家族は大歓迎だと察する。市内外で、子どもが多い家族居住者が、特認校区へ移転し自宅を新築する場合、市は土地の斡旋や住宅建設補助金の制度を整えると、持続可能な世代育成に反映すると考える。この制度を事業化して校区の世代育成に取り組めないか問う。</p>	